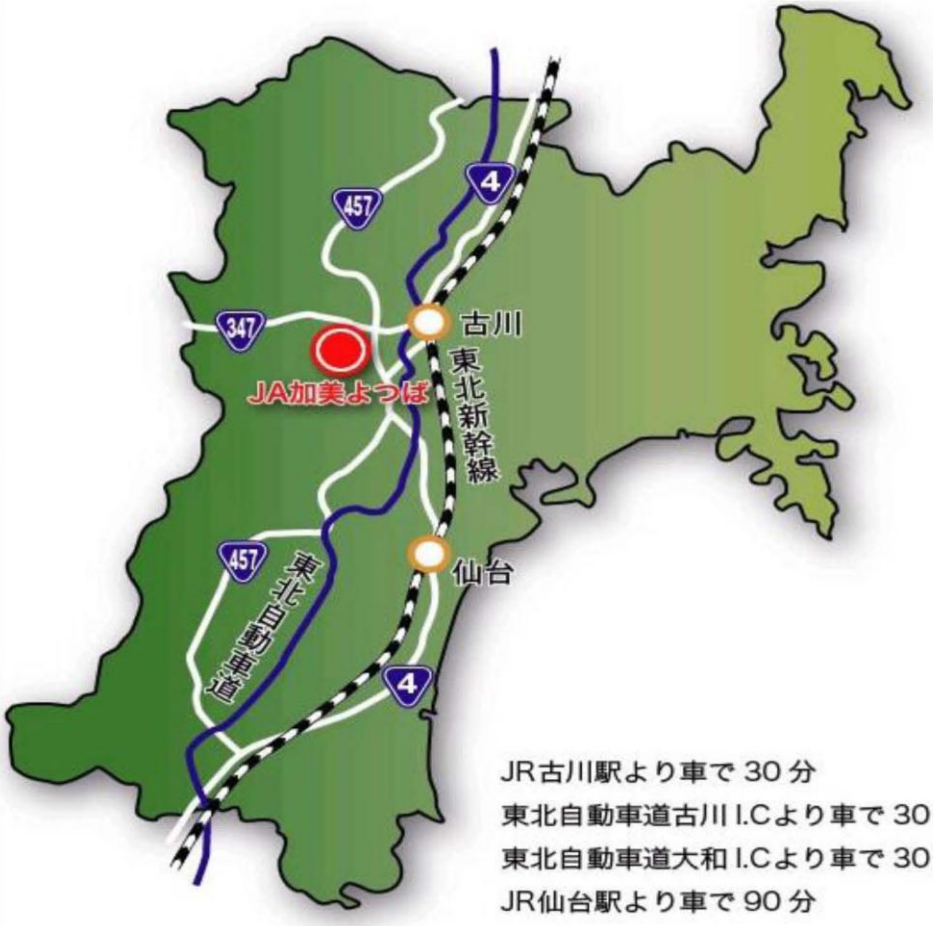
JA加美よつばにおける飼料用米カントリーエレベーターの活用

JA加美よつば営農販売部
農産振興課　今野　仁一

加美よつばの位置図



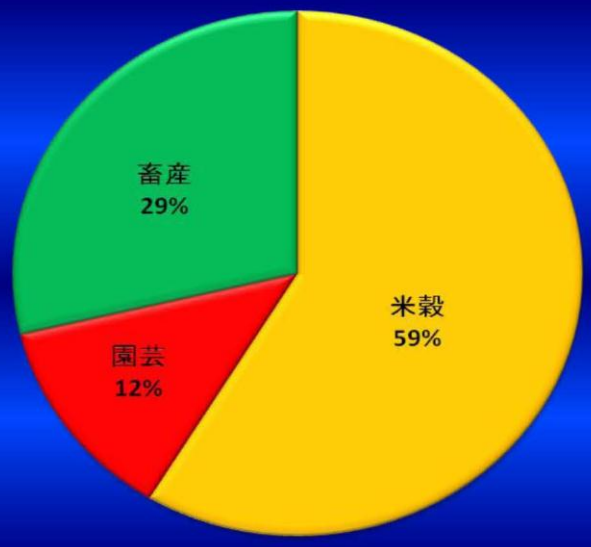
JR古川駅より車で 30 分
東北自動車道古川 I.Cより車で 30 分
東北自動車道大和 I.Cより車で 30 分
JR仙台駅より車で 90 分

加美よつば農業協同組合の概要

- 組合員数　7,997人
- 役員数　28人(常勤5人)
- 職員数　260人
- 施設　本店・営農センター
  - 購買店舗　4
  - 金融店舗　4
  - 給油所　3
  - 農機・自動車　4
  - CE ・RC　4
  - 野菜集出荷施設　3
  - 米倉庫　7

- 貯金　450億
- 貸出金　92億
- 長期共済保有高　2，667億
- 購買品供給高　43億
- 販売品販売高　71億
- 出資金　19億
- 余剰金　2.15億
- 自己資本比率　21.25%

平成26年度販売品販売高



米　穀　42億円

園　芸　9億円

畜　産　20億円

合　計　71億円

集落営農組合への飼料用米の取り組み推進

・米政策大綱の政策として、品目横断的経営安定対策が示され、管内で69集落営農組合を設立

・殆どが集落ぐるみ型（枝番管理）

・今後の発展と方向を見失う可能性

・営農組合を動かすため飼料用米の生産を提案

・大豆・飼料作物等での転作が困難な地域への転作作物として注目。

飼料用米の取組み経過

・平成19年度に実験事業として50アール作付。
・取り組み初年度目の収穫量は皆無だった。
・平田牧場の「こめ育ち豚」の販売が好評で、生産拡大のため、平成20年産より遊佐町で行っている食料自給率向上プロジェクトへの協力依頼があった。

食料自給率向上プロジェクトへの参加

「つくる人、使う人、食べる人」という一環した取組みを構築。

●目的

食料の安全保障問題への対応→国内自給力を高める→飼料用米を基軸に輸入穀物に依存しない生産、保管、流通、利用、生産物の消費のしくみの構築

●構成団体

飼料用米生産者団体、保管流通管理団体、飼料実需生産者、生産物の消費者団体、行政関係機関、大学等調査研究機関

平成20年度飼料用米の取り組み

＜単位：ha＞

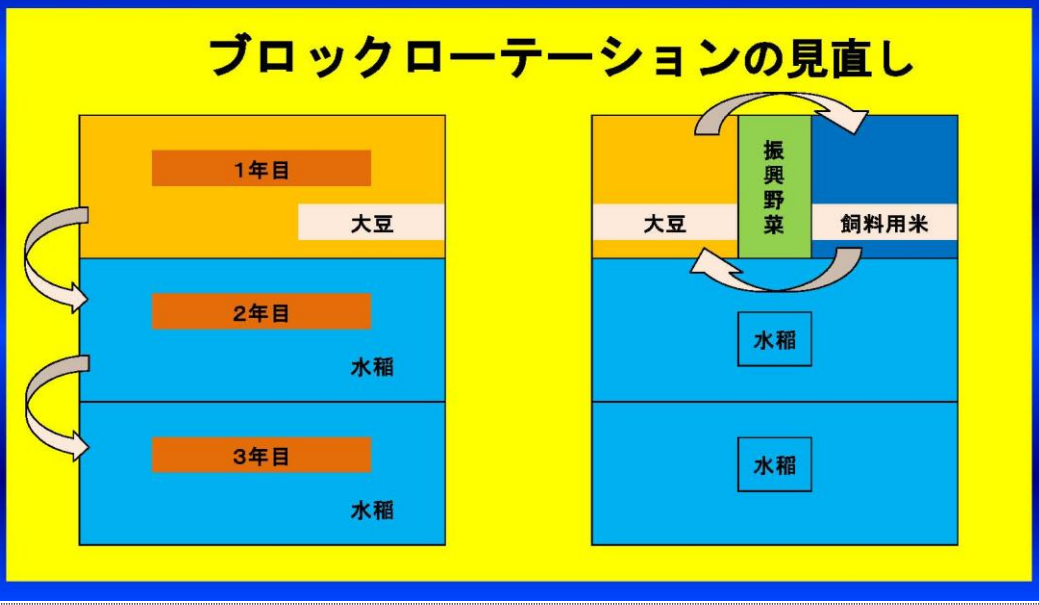
品種名	栽培方法	面積	用途
夢あおば	移植	6.1	配合飼料原料、種子(1.0)
べこあおば	移植	0.5	種子
べこごのみ	移植	1.5	種子
ホシアオバ	移植	5.4	配合飼料原料
ふくひびき	移植	8.7	配合飼料原料
まなむすめ	移植	1.8	配合飼料原料
計		24.0	

スタートさせたが、色々な課題が・・・・

- 専用品種の特徴：施肥量、初期育成
  - ・主食用米の施肥量では収量が上がらない
  - ・穂重型の特性を持ち窒素量が必要（多肥栽培）
- 主食用米への混入の危険性
  - ・主食用米へのコンタミ対策が必要
  - ・作業機械での混入、複田時のこぼれ籾
  - （飼料用米生産後の水田にはクリーニングが必要）
- 不正規流通の防止
- 保管・流通対策の整備
- 低価格米・多肥栽培のため、コストの削減が重要

コンタミ対策

・農用地利用改善団体の機能強化（交換耕作）
・ブロックローテーションの確立と見直し
・大豆と飼料用米の固定化団地による輪作体系の確立



飼料用米専用カントリーエレベーター建設

・飼料用米の生産拡大と高品位安定生産
・一元的な集荷（コンタミ対策）
・流通コストの低減（バラ流通体系）

低コスト栽培に向けての取組み

●直播栽培（鉄・カルパー）
・育苗管理作業の削減
●疎植栽培
・栽植密度　45～37株/坪
●大規模連担団地（7ha～20ha）
・作業効率の向上
●立ち枯れ乾燥
・出穂後60日頃からの刈取り　目標水分20%以下（専用種）
●堆肥と窒素単肥の組合せ
・牛ふん堆肥(P･Kの全部代替)1t＋基肥N5kg＋減分期N4kg
●流し込み施肥
・追肥作業の省力化　給水タンク活用により田んぼに入水しながらの追肥

生産調整作物別推移（H20～H27年）

＜単位：ha＞

作物名	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
生産調整面積	2,672	2,607	2,538	2,607	2,601	2,579	2,740	3,128
大豆	802	719	633	640	412	497	550	620
飼料用米	**24**	**107**	**160**	**174**	**387**	**260**	**368**	**640**
米粉用米	0	0	11	15	32	17	14	17
稲WCS	25	26	68	130	146	192	177	275
新規需要米計	**51**	**133**	**239**	**319**	**565**	**469**	**559**	**932**
加工用米	0	0	8	1	8	33	67	48
飼料作物	1,029	1,015	953	933	903	908	881	861
地域特産品目	156	103	85	78	72	64	63	47
野菜類等	237	258	270	275	271	281	285	260
その他	384	382	351	351	370	327	335	360

飼料用米栽培と品種構成の推移

	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
戸数	8	28	45	51	71	68	107	224
面積（ｈａ）	24	107	160	174	387	260	368	638
生産数量（トン）	95	492	719	731	1,597	1,277	2,019	3,376
反収（ｋｇ）	396	459	449	420	412	491	548	529
品種	夢あおば べこあおば べこごのみ ホシアオバ ふくひびき まなむすめ	夢あおば	夢あおば べこあおば	夢あおば べこあおば ふくひびき まなむすめ	夢あおば べこあおば べこごのみ ふくひびき まなむすめ	夢あおば べこごのみ ふくひびき まなむすめ	夢あおば べこごのみ ふくひびき 東北211号 まなむすめ	夢あおば 東北211号 ふくひびき まなむすめ げんきまる

飼料用米の交付金の推移

（単位:円）

	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
基本額	38,500	51,000	80,000	80,000	80,000	80,000	55,000～105,000	55,000～105,000
団地加算			2,000	2,000	2,000	2,000	3,000	3,000
専用品種加算							12,000	12,000
重要即応		25,000						
計	38,500	76,000	82,000	82,000	82,000	82,000	70,000～120,000	70,000～120,000

数量払い導入による基準収量達成状況

地区名	H27年産米収量(10a当り)			基準数量達成者	基準数量達成率
	平均	最低	最高		
色　麻	549.8kg	280kg	781kg	82/121人	67.8%
中新田	606.1kg	473kg	811kg	17/ 22人	77.3%
宮　崎	506.5kg	278kg	611kg	22/ 50人	44.0%
小野田	502.5kg	312kg	657kg	22/ 31人	71.0%
全　体	528.9kg	278kg	811kg	143/224人	63.8%

飼料用米の交付金の推移

（単位:円）

	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
基本額	38,500	51,000	80,000	80,000	80,000	80,000	55,000～105,000	55,000～105,000
団地加算			2,000	2,000	2,000	2,000	3,000	3,000
専用品種加算							12,000	12,000
重要即応		25,000						
計	38,500	76,000	82,000	82,000	82,000	82,000	70,000～120,000	70,000～120,000

数量払い導入による基準収量達成状況

地区名	H27年産米収量(10a当り)			基準数量達成者	基準数量達成率
	平均	最低	最高		
色　麻	549.8kg	280kg	781kg	82/121人	67.8%
中新田	606.1kg	473kg	811kg	17/ 22人	77.3%
宮　崎	506.5kg	278kg	611kg	22/ 50人	44.0%
小野田	502.5kg	312kg	657kg	22/ 31人	71.0%
全　体	528.9kg	278kg	811kg	143/224人	63.8%

支援制度の長期政策化と財源の確保

●TPPによる影響と不安

特に懸念される畜産と米 → 負の連鎖の可能性

・肥育農家 … 増頭の余力がない

・繁殖農家 … 子牛の売り先を失う

・稲作農家 … 飼料用米の需要を失う

●「食料・農業・農村基本計画」

・平成37年産までの生産数量目標110万トン

・目標達成に必要な支援を行うことを明記している

●国の支援がなければ飼料用米の生産は成り立たない

●恒久的な支援の確約が飼料用米生産の支えになる

※出口対策も検討しなければ根本的な解決策にはならない

今後の展望

●耕畜連携の実践

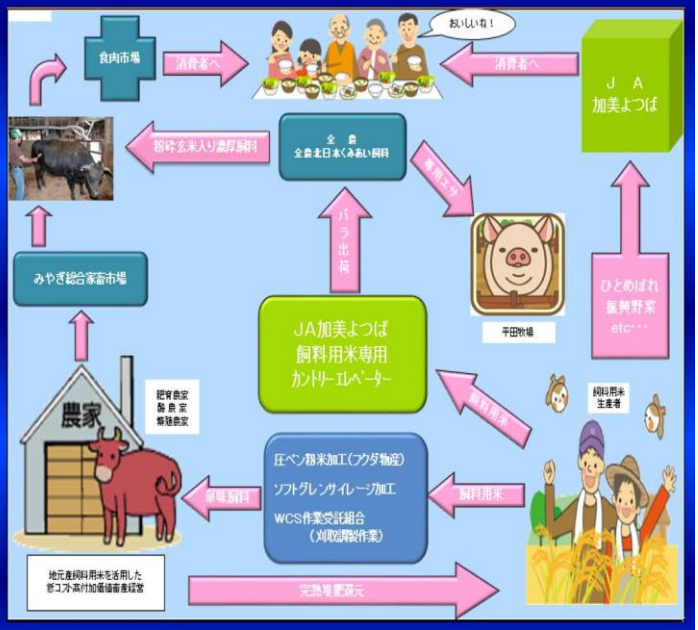
地域で生産された飼料用米が地域の畜産農家に、もっと活用されるべき

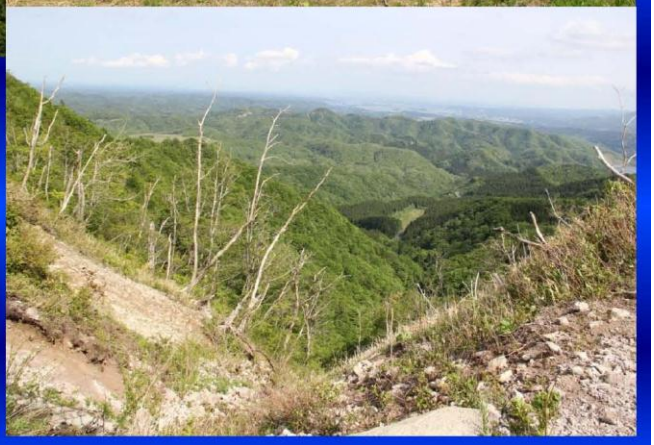
・SGS（ソフト・グレイン・サイレージ）

・圧ぺん籾米

・稲WCS

・TMRセンターの実現





ＪＡ 綱 領

－わたしたちJAのめざすもの－

わたしたちは

1.地域の農業を振興し、わが国の「食」と「緑」と「水」を守ろう。

ご清聴ありがとうございました。